

東かがわ瀬戸内ジオサイト10選

「ジオサイト」とは地質名所のことを言います。本市の海岸線のジオサイトを選定しました。

名称	内容
ランプロファイヤー岩脈 (らんぷろふあいやーがんみやく)	松原から引田にかけた海岸では、花崗岩中の節理が生成された際に貫入した多数のランプロファイヤー岩脈を見ることができます。年代は白亜紀後期と思われます。蕪越(かぶらごし)のランプロファイヤー岩脈は、1942年(昭和17)に国の天然記念物に指定されました。
絹島の柱状節理 (きぬじまのちゅうじょうせつり)	絹島には約1300万年～1400万年前と推定される讃岐層群の玄武岩の柱状節理があります。絹島はマグマが高角度に貫入した岩脈からなる火山岩類と推定されます。絹島の柱状節理は1940年(昭和15)に国の天然記念物に指定されました。 ※【東かがわ伝説10選】絹島
丸亀島の柱状節理 (まるがめじまのちゅうじょうせつり)	丸亀島の柱状節理は低角度で讃岐層群の玄武岩が花崗岩中に貫入した岩脈と推定されます。丸亀島の柱状節理は1940年(昭和15)に国の天然記念物に指定されました。
女郎島 (じょうろうじま)	女郎島は花崗岩でできた陸繋島(りくけいとう)で、大潮の干潮時には島を結ぶ陸繋砂州(トンボロ)によって田の浦海岸と地続きになります。女郎島付近の花崗岩にはランプロファイヤー岩脈が貫入しています。 ※【東かがわ伝説10選】女郎島
通念島 (つうねんじま)	城山の東北東の沖合約2kmにある通念島では、領家花崗岩と和泉層群との不整合を四方から見るすることができます。
一子島 (ひとごじま)	一子島では、節理面に沿って花崗岩が波の浸食を受け、海食洞が形成されています。隣の小島との間にも海食洞がありましたが、橋の部分が崩落して3つの小島になったようです。
城山 (しろやま)	城山(標高86m)は現在、引田と陸続きとなっていますが、古くは間に海が入り、城山の西側のみが陸に通じる状況でした。また、花崗岩類と和泉層群が急峻な崖をつくり、城山は天然の要害となっています。城山にある引田城跡は、高松城跡、丸亀城跡と並ぶ総石垣城跡とされ、城山の尾根を囲むように築かれていました。 ※【東かがわ史跡10選】引田城跡
城山北側海岸 (しろやまきたがわかいがん)	城山の北側の海岸は、花崗岩の崖に黒色のランプロファイヤー岩脈が貫入しています。
引田不整合 (ひけたふせいごう)	城山灯台直下は俵ころがしと呼ばれる断崖絶壁で、和泉層群と領家花崗岩が露出しています。和泉層群は、領家花崗岩を不整合で覆っています。この傾斜不整合は引田不整合と呼ばれ、日本で最初に発見された中生代の不整合露頭です。
デイサイト岩脈 (でいさいとがんみやく)	蕪越のランプロファイヤー岩脈露頭へ向かう遊歩道沿いでは、基盤の花崗岩に黒雲母デイサイトが貫入しています。このデイサイトは、瀬戸内火山岩類(讃岐層群)に属する約1400万年前の岩脈と推定され、ランプロファイヤーよりはるか後の時代のものです。

東かがわ史跡10選

本市の史跡を選定しました。

名称	内容
引田のまち並み (ひけたのまちなみ)	古くから港町として栄えた面影を残す引田のまち並みには、国の登録有形文化財(建造物)が点在します。引田ひなまつりは香川県を代表するひなまつり行事です。
引田城跡 (ひけたじょうせき)	戦国時代の終わりごろ(17世紀末期)、豊臣秀吉の家臣生駒親正によって築かれた城です。現在でもその当時の石垣が残っています。 ※【東かがわジオサイト10選】城山
原間古墳 (わらまこふん)	古墳時代(6世紀)の横穴式石室の古墳です。原間古墳のまわりには多くの古墳があります。なかでも古墳時代中ごろ(5世紀)に作られた原間6号墳からは甲冑や太刀など武具や鉄の農具が見つかっています。
白鳥廃寺跡 (しろとりはいじあと)	飛鳥時代(7世紀)から平安時代(9世紀)までであった古代寺院跡です。発掘調査によって、塔・講堂などの建物跡、仏像の頭髪の一部や大量の瓦が見つかっています。
大坂峠 (おおさかうげ)	古代から香川県と徳島県を結ぶ重要な峠道です。源平合戦の折(12世紀末期)、源義経や弁慶が通ったことで知られています。平成8年に歴史の道百選に選定されました。
虎丸城跡 (とらまるじょうせき)	戦国時代(17世紀)の山城として知られています。周辺に鍛冶屋敷や下屋敷など虎丸城と関係が考えられる地名が残っています。
蕪越狼煙場跡 (かぶらごしのろしばあと)	江戸時代末期(19世紀中ごろ)に設けられた異国船の渡来を告げる狼煙場です。蕪越狼煙場跡には遠見番所跡も残存しており、高松藩の海防を知る貴重な史跡です。 この近くには地質名所であるランプロファイヤー岩脈(国天然記念物)があります。
川北一号墳 (かわきたいちごうふん)	古墳時代(7世紀)の横穴式石室の古墳です。ここからは引田一帯が展望できます。引田を治めていた豪族が埋葬されていると考えられています。
向山翁砂糖開基碑 (さきやまおうさとうかいきひ)	讃岐国の白砂糖づくりに尽力した向山周慶の記念碑です。江戸時代の終わりごろ、嘉永3年(1850)に建てられました。 ※【東かがわ歴史上ゆかりのある人物10選】向山周慶
安戸池 (あどいけ)	この池(海水)で昭和3年に地元の網元である野網和三郎がハマチ養殖の事業化に日本で初めて成功しました。この成功はハマチに限らず海面魚類養殖の初成功でした。

東かがわ歴史上ゆかりのある人物10選

江戸時代までの本市にゆかりのある人物を選定しました。

名称	内容
倭迹々日百襲姫命 (やまとととひももそひめのみこと)	孝霊天皇の皇女。百襲姫命は水主神社(水主)、檜掛神社(馬篠)や袖掛神社(小磯)など市内の神社で祀られています。大和国から流されて安戸、伊座、川東、水主など市内各地を巡った伝説があります。
日本武尊 (やまとたけるのみこと)	白鳥神社の祭神です。伊勢で亡くなった日本武尊の霊が白鶴となって留まったという言い伝えがあります。日本武尊は武勇に長じていたことから、彼にちなみ毎年5月5日に演武大会が開かれています。
清少納言 (せいしょうなごん)	与治山の祠「清少納言さん」には都から流された姫が祀られています。婦人病にご利益があるといわれています。毎年9月のはじめごろに清少納言祭りがあります。 ※【東かがわ伝説10選】清少納言
増咩僧正 (ぞうんそうじょう)	室町時代の僧侶。大内郡西村に生まれ、与田寺住職となりました。東寺や高野山さらに熊野三山などで修行し、水主に熊野三山を勧請したといわれています。讃岐国に留まらず中国・四国地方の寺院を開山・中興するなど大きな業績を残し、後世には「弘法大師の再誕」とまで称えられました。
磯野禅尼(源義経、静御前) (いそのぜんに)	磯野禅尼は源平合戦(12世紀末)で活躍した源義経の妻静御前の母です。小磯の百姓庄左衛門の一人娘で幼いころから美人で、小磯港から京都に向かい、そこで静御前を生んだと伝えられています。 ※【東かがわ伝説10選】磯野禅尼の生誕地
向山周慶 (さきやましゅうけい)	江戸時代中ごろの大内郡湊村(東かがわ市湊)の医師。高松藩5代藩主松平頼恭(よりたか)が糖業の研究を藩医池田玄文に研究を命じ、玄文のあとを継いだ向山周慶が寛政2年(1790)に白砂糖の製造に成功しました。周慶は四国遍路の途中で病にかかった薩摩の関良介を助け、関良介は帰郷後、その恩に応えるため国禁を犯してサトウキビの苗を持ってやって来て、その苗を育てて砂糖製造が成功したと伝えられています。 彼らを祀った「向良神社」が市内と高松市にあります。 ※【東かがわ史跡10選】向山翁砂糖開基碑
久米栄左衛門通賢 (くめえいざえもんつうけん)	江戸時代終わりごろの大内郡馬宿村生まれの科学技術者です。香川県内では坂出塩田の開発で有名です。 幼いころから手先が器用だったと伝えられており、19歳の時、大坂の天文学者間重富に天文暦学を学びました。大坂からの帰郷後に高松藩から命じられて藩内の測量を行いました。全国を測量中の伊能忠敬と行動を共にしたこともありました。 また、銃砲の開発にも長けており、ゼンマイを利用して着火する輪燧佩銃(りんすいはいじゅう)を開発しています。
庄松 (しょうま)	大内郡土居に生まれました。農業の傍ら寺男として勝覚寺に出入りしていました。奇抜な言動は、後世になり『庄松ありのまま記』という本にまとめられました。法名正真。小砂に墓所があり、勝覚寺に銅像があります。
森権平 (もりごんぺい)	森権平は、戦国時代の終わりごろ活躍した豊臣勢の武将仙石秀久の家臣です。当時引田城主であった仙石秀久と土佐国の長宗我部勢とが伊座で合戦をしました。この合戦で、若武者であった森権平は奮戦しながらも、愛馬が深田に踏み入れたため討ち取られてしまいました。このことから、足の神様として森権平庵に祀られています。 ※【東かがわ伝説10選】森権平庵
池田彦七 (いけだひこしち)	江戸時代中ごろの落合・松崎村の庄屋。享保16・17年(1731~32)、水害により農作物の収穫が皆無となり、家財を売って貧民を救済していました。後に池田義民として称えられ、池田神社(落合)に祀られています。

東かがわ伝説10選

本市にまつわる伝説を選定しました。

名称	内容
水主神社 (みずしじんじゃ)	孝霊天皇の皇女である倭迹々日百襲姫命が祀られています。百襲姫命は水主神社以外にも、櫓掛神社(馬篠)や袖掛神社(小磯)など市内の神社で広く祀られています。百襲姫命は水神としてあがめられています。
白鳥神社 (しろとりじんじゃ)	日本武尊が祀られています。伊勢で亡くなった日本武尊の霊が白鶴となって留まったという言い伝えがあります。春祭りでは白鳥だんじり子供歌舞伎(市指定文化財)、秋祭りでは虎頭の舞(県指定無形民俗文化財)が演じられます。また北側の白鳥の松原には日本一低い山としてPRしている御山があります。
絹島 (きぬじま)	蛇の穴という洞穴があり、ここで雨乞いの祈禱をすると竜神が雨を降らせてくれるという言い伝えがあります。隣接する丸亀島とともに国天然記念物となっています。 ※【東かがわジオサイト10選】絹島の柱状節理
清少納言 (せいしょうなごん)	都から流された姫が祀られています。婦人病にご利益があるといわれています。毎年9月のはじめごろに清少納言祭りがあります。 ※【東かがわ歴史上ゆかりのある人物10選】清少納言
森権平庵 (もりごんぺいあん)	戦国時代の終わりごろ、土佐国の長宗我部勢と戦いの中で討ち死した豊臣勢の仙石秀久の家臣森権平を祀っています。足の神様として知られています。 ※【東かがわ歴史上ゆかりのある人物10選】森権平
磯野禪尼の生誕地 (いそのぜんにのせいたんち)	平安時代の終わりごろ、源義経の妻静御前の母である磯野禪尼の生誕地と伝えられています。このほかにも東かがわ市には源平合戦で活躍した源義経や弁慶にまつわる伝説が残っています。 ※【東かがわ歴史上ゆかりのある人物10選】磯野禪尼(源義経、静御前)
女郎島 (じょうじま)	引田城の腰元おせんと僧侶の悲恋の伝説が伝わっています。 ※【東かがわジオサイト10選】女郎島
水主三山 (みずしさんざん)	室町時代に虎丸山、那智山、本宮山に熊野三山が勧請されました。本宮山には7mを越す巨石くじら岩があります。
仁池 (にいけ)	大蛇伝説があります。池には鳥居があり、水没して見られませんが石碑もあるといわれています。
海蔵院 (かいぞういん)	源平合戦の折(12世紀末期)、源義経一行が休憩したと伝えられています。

東かがわ大きな木10選

本市のシンボリックな大きな木、天然記念物に指定されている貴重な木などを選定しました。

名称	指定区分	指定年	樹高	主幹胸高
與田寺のムクノキ (よだじのむくのき)	県天然記念物等	S29	24.5	6.1
三宝寺のボダイジュ (さんぼうじのぼだいじゅ)	県天然記念物	S42	11	2.19
井筒屋敷のホルトノキ (いづつやしきのほるとのき)	香川の保存木	H20	13.5	3.43
白鳥神社のクスノキ (しろとりじんじゃのくすのき)	香川の保存木	S53	26.5	6.75
勝覚寺のイチヨウ (しょうかくじのいちよう)	香川の保存木	S53	19	3.7
観音谷の大楠 (かんのんだにのおおくす)	東かがわ市天然記念物	S59	22	5.3
石清水神社のクスノキ (いwashimizuじんじゃのくすのき)	香川の保存木	S53	28	5.3
水主神社のいのり杉 (みずしじんじゃのいのりすぎ)	香川の保存木	S53	30	5.4
三宝寺のチシャノキ (さんぼうじのちしゃのき)	香川の保存木	S61	13.5	1.57
境目のイチヨウ (さかいめのいちよう) ※所在は徳島県阿波市	徳島県天然記念物	S35	14	9.1